



授業評価アンケートを見て

昨年末に実施した「授業評価アンケート」の結果が出た。教室掲示したので見ておいてほしいが、簡単に結果をまとめてみよう。

*

<自己の授業への取り組み>

	15R	学年
1 予習・復習	10.5	23.0
2 授業への集中度	26.3	18.9
3 部活との両立	8.6	19.9
4 教養より受験	-9.5	-12.7

<授業に対する評価>

1 時間割内授業	49.7	53.4
2 土曜・休業中補習	51.1	42.6
3 質問・相談	55.1	49.4
4 アンケートの継続	13.0	-9.1

*

下段の<授業に対する評価>を見ると、だいたい学年の傾向と一致している（「アンケートを継続した方がよい」という項目については、なぜか学年で一番高い数字である…笑）。

問題は上段の<自己の授業への取り組み>である。誰が見てもわかるように、「1 予習・復習や自主学习」のポイントが低い、つまり、家庭学習に改善の余地があるということだ。その分、「2 授業への集中度」は学年の平均よりも高くなっており、家庭でできない部分を、授業中に取り返そうということだろうか。それはそれでイイ心構えだと思うし、そういう気持ちや態度が重要なのだということは以前にも書いたが、いよいよ2年生になる時期も近づいてきているわけだから、あえて

厳しめに書けば、いくら授業に集中しても、予習・復習が足りていなければ、その授業の良さを生かし切れないということを肝に銘じてほしい。

関連して、「3 部活との両立」については、1 学年の中でもっとも低いポイントになっている。部活を継続することはイイことだが、一方で両立が難しいのも確かである。演奏会直前のオケや、校庭が使えないことで遠征や土・日の練習試合が増えたりしている運動部は、確かに大変だと思う。しかし、それを放置しておいてイイかという、「マズいなあ」と自分自身が一番感じているはずだ。いくら何でも一年近く部活を続けてきて、忙しい時期がいつ頃かとか、一週間の練習のリズム・練習量などの目安がある程度はつくようになっているはずである。それを踏まえて、もう一度、「両立」という課題に積極的に取り組んでほしい。

*

上段の最後は「4 幅広い教養よりも受験向きの授業・講習を増やしてほしい」という項目であったが、ここがマイナスである点はさすがに日比谷生であると思う。もちろん、進学指導重点校として大学進学を意識した指導をしているわけだが、例えば東大の入試にしても、英語の試験問題の内容が、先端科学の話題だったり、哲学や政治・経済の話題だったりするわけである。文系・理系などといった枠組にとらわれない、幅広い総合的な学力が求められていることに留意して頑張ろう。